

知事記者会見の概要

日 時：平成30年3月20日(火) 10:00～10:26

場 所：記者会見室

出席者：知事、総務部長、秘書課長、広報推進課長

出席記者：14名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報推進課長開会の後、知事から発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 農業総合研究センター「食品加工支援ラボ」の完成
及びオープニングセレモニーの開催について

代表質問

- (1) 旧優生保護法下で障害者らへの強制的な不妊手術が行われた問題について

フリー質問

- (1) 発表事項に関連して
- (2) 財務省の決裁文書書き換え（改ざん）問題について

< 幹事社：毎日・産経・YBC >

☆ 報告事項

知事

皆さん、おはようございます。

今日から寒の戻りがあるということであります。県民の皆様にはくれぐれも体調管理にご留意いただきたいと思います。

では、恒例となりましたイベントや祭りのご紹介であります。

河北町では、4月2日と3日に、「谷地ひなまつり」が開催されます。旧家に代々受け継がれ、大切に残されてきた格調高い時代雛が一斉に公開され、紅花交易がもたらした当時の華やかな文化に思いを馳せながら、優美な姿をご覧いただくことができます。

また、県内各地で、貴重な雛人形の数々が公開、展示されておりますので、この機会にぜひご覧いただければというふうに思います。

明日からスプリングシーズンに入る蔵王温泉スキー場では、リフト料金も割安に楽しむことができます。また、4月1日まで、リフト券と宿泊がセットになった、お子様連れ家族限定の「春休みファミリーパック」で、お得に蔵王を満喫することができます。

いよいよ、春の足音が近づいてまいりました。

これから県内各地で、春にちなんだイベントや祭りが開催されますので、ご家族やご友人の皆さんで、ぜひお出かけ下さい。

では、発表が1点ございます。

山形市みのりが丘の農業総合研究センター内に「食品加工支援ラボ」が完成し、来週の3月27日にオープニングセレモニーを開催しますのでお知らせします。

この施設は、農業者や食品製造業者等の皆様による県産農産物を使った加工食品の商品開発の取組みを支援するための施設として整備したものです。農業総合研究センター、工業技術センターの職員で構成する「食品加工支援チーム」から技術指導を受けながら、お菓子や果汁飲料、レトルト食品、アイスクリーム等の様々な加工食品の試作を行うことができます。

また、利用者自らが、保健所の食品営業の許可を取得すれば、開発した試作品を販売することも可能です。

さらに、食品加工技術や衛生管理等に関する様々な研修会を開催しますほか、パッケージデザインに関する相談にも対応する予定でございます。

県では、この施設を活用して、農業者や食品製造業者等の皆様による新商品開発の取組みに対する支援を強化し、6次産業化のさらなる推進を図り、本県農産物の付加価値向上につなげてまいります。

農産加工を手がけたい農業者の方や、食品製造業者の皆様に、積極的にご活用いただきたいと思いますと考えております。

私からは以上です。

☆ 代表質問

記者

毎日新聞の深尾です。おはようございます。幹事社から質問させていただきます。

旧優生保護法下で、障害者らへの強制的な不妊手術が行われた問題を巡って、今年 1 月に宮城県の女性が国に賠償を求めて仙台地裁に提訴したり、国会でも超党派の議連が発足したり、被害救済の声の高まりを受けていろいろな動きがみられます。

山形県内でもですね、同様の不妊手術が実施されていたことがこれまでに明らかになっておりますが、一連の問題を巡って、県が現在把握されている県内の状況と現在の対応について教えていただければと。また、知事のご所見であったり、今後の対応についてのお考えもお聞かせ願えればと思います。よろしくお願いいたします。

知事

はい、わかりました。

旧優生保護法下での不妊手術の問題につきましては、現在、政府と与党で実態調査を実施する動きや、国会議員による救済策の検討の動きがあるということは、報道を通じて承知をしているところです。

旧優生保護法に基づく不妊手術につきましては、当時の法律に基づいて行われたものではありますが、本人の同意がないまま手術が行われたということでありまして、大変悲しく、痛ましい出来事であったというふうに思っております。

本県における関係書類の保存状況を調査しました結果、個人の記録が分かるものとしまして、優生保護審査会に関する文書の一部と、医師から提出された優生手術実施報告書の一部などが保存されていることを確認しております。

旧厚生省の統計データによりますと、本県では、445 件の不妊手術が行われた記録がありますが、本県の保存文書では、皆様に配布しました資料のとおり、昭和 45 年度以降の優生保護審査会において 83 件が審査され、このうち 78 件が手術適当とされましたこと、また、優生手術実施報告では、このうちの 5 名について、不妊手術がなされた記録が残っております。

今後の対応ということですが、当時の法律に基づいて行われたものでありますので、実態調査の方法や救済の考え方などについて、まずは、政府として統一的な方針を示していただく必要があると考えております。

引き続き、政府の動きなどを注視するとともに、今後、政府が示す実態調査の具体的な方針などを踏まえ、しっかりと対応してまいりたいと考えております。

なお、本県では、子育て推進部子ども家庭課におきまして、県民の皆様からのご相談やお問合わせに対応することとしております。

記者

ありがとうございます。今までにですね、一連の問題で県民の方からであったり、県外の方かもしれませんが、山形県に対する照会であったりとか、何か相談であったりとか、そういったことはありましたでしょうか。

知事

はい。あったというふうに聞いているところでございます。

子育て推進部次長

私どもの方には先週になりますが、県民の方からお電話でのお問い合わせが1件ございます。国で実態調査をする方針というような報道があったことを受けまして、どのような調査になるのだろうかといったようなお問い合わせが1件ございました。

記者

わかりました。ありがとうございました。幹事社から以上です。

☆ フリー質問

記者

共同通信神戸と申します。今の質問に関連してなのですが、お問い合わせがあったというのは、手術の当事者として、手術に関わられた方なのか、あるいはそれとは関係なく、どういった内容なのかという趣旨の問い合わせだったのかという部分を確認させてください。

知事

はい、では、担当答えてください。

子育て推進部次長

お話の内容では、ご自身がということでは無かったようではありますが、なんらかの関係、親族とか関係されてる方がというようなことでのお問い合わせでございました。

知事

よろしいでしょうか。はい。

記者

河北新報の宮崎です。優生保護法の件なのですけども、この文書というのは、県ではどこに保管されていた文書なのでしょうか。

知事

保管場所ですか。

記者

保管場所とか、ええ、1箇所なのか分散したのか、その辺も含めて分かる限り教えていただきたい。

知事

じゃあそれに教えてください。

子育て推進部次長

県庁内の書庫のほうに、かなり年数の経った文書でありますので、書庫のほうに保管してある文書の中にございました。

知事

よろしいですか。

記者

この1箇所にでしょうか。

子育て推進部次長

今把握してお示ししたのは1箇所です。

記者

他にも例えば、県の図書館とかですね、そういった所とかにもある可能性はあるのですか。

子育て推進部次長

公文書センターでしたかね、そちらの方も確認いたしました但しこちらには無いということで、その他、保健所の方も確認しておりますが、こちらの方にも無いということでございます。

記者

再びすみません。毎日新聞です。全国的に問題になっているのはですね、記録に残っていらっしやらない方というのは結構な人数いらっしやると。そのことについて、都道府県から国に要請、調査をするべきじゃないかという話だったりとか、いろんな動きが出てい

ますけれども、要は、その記録の残ってない方に対する対応というところは山形県さんとしてはどうお考えでしょうか。

知事

そうですね、法律の下で行われたことだと承知をしております、これからどういう動きになっていくかはしっかりと注視をしていってですね、やはり調査になればですね、全国一律の基準というものが必要なのだろーと思っております。各自治体でバラバラに調査ということになりますと、その後のさまざまな場面でいろんな事が生じると思いますので、まずはやはり政府に方針を示していただき、また基準というものを考えていただいて、それに基づいて政府と地方とで一体的に調査をするというのが最も望ましいのではないかなと思っております。

私どもとしては、できる限りの調査を行った段階でありまして、またこういう内容の調査をということであれば、また追って、いつでもできる限りのことをしたいというふうに思っています。

記者

知事おはようございます。朝日新聞の前川です。今の件で2点教えてください。1点目はちょっと事実確認の関係で、調査を始めたのはいつぐらいで、なんか外からでも分かるようになんかラベルが貼った段ボールみたいなのに入っていたのでしょうか。それともかなり探さないと分からないような保管状況だったのでしょうか。調査の開始時点と保存状況を教えてください。

知事

じゃあこの2点について答えてもらえますか。

子育て推進部次長

保存文書の調査ということの着手の時期でございますけど、昨年の10月頃に、これに関する文書の開示請求が個人の方からございましたので、このあたりに着手をしたというのが最初の時期です。

記者

県内の人ですか。

子育て推進部次長

すみません、これちょっと。

記者

言えないですかね。分かりました。

子育て推進部次長

それから簿冊等はですね、特にまとめて段ボールに入っているという形ではなくて、県庁の地下の書庫に、これは年次ごとにいろんな簿冊が保管してありますけど、その中を逐次調査をして、調べたということでございます。

記者

知事、もう一点なんですけど、それを調査した結果、個人情報分かるような文書がこれだけあったということかと思うんですけど、これは例えば県庁が保管したり、あるいは市町村が保管してるような情報と付き合わせれば、今、生きてらっしゃるとか、あるいは今、ここに住んでらっしゃるとか、そういうのが分かるようなレベルの個人情報なのでしょうか。もし、分かるのであればこの例えば、適とされて手術が行われたとされる、この5人については、なんか連絡を取ったりとか、なんかさらに深く調べたりとか、そういうことはお考えなのでしょうか。

知事

はい、そうですね、5人の方の記録が残っているということを私も聞いておりますので、担当から聞きたいことなのでありますけど、それはちゃんと個人が分かるということでもよろしいですね。

子育て推進部次長

残ってる文書には、個人のお名前、あるいは当時のお住まいとか、そういったことが記載されておりますので、その時点の情報としては分かるものになっております。ただ、ご連絡を取るとかどうかということについてもですね、国の方針に基づいてどういう対応をしていくかということは考えたいというふうに思っているところです。

知事

県がすぐに調査といいますか、そうしますと個人情報ということになりますので、非常にデリケートなところもありますので、やはり国の方針というものが示されてから調査をするというのが望ましいのではないかと考えています。

記者

分かりました。1点確認ですが、国会では超党派で救済策の検討みたいなのを進めると聞いております。例えば、その事前準備として、山形県に厚生労働省を通じてこういう件

があったか、こういう文書があったかというので御回答したりした経緯はありましたか。

知事

今のところあったとは聞いておりません。はい。

記者

分かりました、ありがとうございます。

記者

すみません、読売新聞です。担当課さんでも構わないんですけども、この5人の方の手術された経緯は、それぞれどうなってるのでしょうか。

知事

経緯ですか。

記者

どういう経緯で承認されたか。

知事

承認された経緯ってのは分かりますか。

子育て推進部次長

すみません、あまり具体的に申し上げることは難しいところありますけど、当時の制度としては、担当の医師から審査会に対して申請があって、それで申請の内容を審査会で審査をして、適当かどうかということ判断してるということになっております。経緯はその個別、個別にいろいろあったかというふうに思います。

知事

よろしいでしょうか。

記者

1つ1つの具体的な内容といいますか、具体的な経緯というのは、例えばこの1番の方だったらどういう経緯で承認されたかというのはわかりますか。

広報推進課長

後ほど、対応させていただいてよろしいでしょうか。

記者

すみません、術数を増やすために、通達とか、そういうのを出されたっていう経緯はあったんでしょうか。

子育て推進部次長

報道では、他県でそういう文書が残っているということがございましたが、本県でまだそういう文書は確認しておりませんが、おそらく報道によれば、各県あてに出されているということですので、本県にも来たのだらうというふうには思っております。

記者

すみません、最後に、県の審査会の審査員のメンバー、構成と、大体何人ぐらいでこう、審査されてたのかっていう、審査会の。

知事

そういうのは残っているのでしょうか。

子育て推進部次長

ちょっと手元にないので、後ほど。すみません。

知事

いいですか。

記者

NHKの池川です。

今の関連なのですけれども、確認なのですが、ここに記載のある年度以外の資料は、探したけれど見つからなかったということで、よろしかったのでしょうか。

知事

はい。よろしいということです。

記者

あと、もう1点。今回この相談窓口を、子ども家庭課に置くというお話ありましたけれども、一連の報道があってからですね、心当たりのある人とか、心配な人も少なからずいるのかなというふうには思っているのですが、知事からあらためてですね、子ども家庭課でどういう対応をするのかというところで、県民の方に呼びかけていただきたいのですけれども、どういうお考え持っていますか。

知事

そうですね。今、本人の同意なしに不妊手術が行われたということで、話題にのぼっております。また、調査であるとか救済というようなことも話題にのぼっております。いろいろなことにつきまして、ご相談やお問合せがありましたら、県庁の子育て推進部の子ども家庭課で受け付けておりますので、こちらのほうにお問合せいただければというふうに思います。

記者

一応、確認なのですが、具体的には今問合わせしたことによって、何か対応というかですね、何かするという方針はまだ県としては決めていないということなのでしょう。

知事

そうですね。ご相談ごとに、その内容によって県ができることをできる限り行うということでありまして、その先のことと言いますかね、それはやはり、法の名のもとに行われたものでありますので、やはり国としての方針が必要になってくるというふうに思っています。

記者

全く別件なのですが、今、国会のほうです、森友学園の公文書を巡る話で、財務省の文書書換えの話が話題に上がっているかと思うのですが、知事ご自身としてですね、この問題に関してどういうふうに、まず一連のやりとりも含めてですね、財務省の対応も含めて、受止めてらっしゃるのかというお考えと、あと、県の公文書の管理のあり方についてですね、今回の件を受けてなのか、それともこれまで従来やっていることなのかも含めてですね、どういうふうに管理されていらっしゃるのか、今後の対応等も含めてですね、聞かせていただけますでしょうか。

知事

はい。財務省において決裁文書の書換えがあったということにつきましては、あつてはならないことであつて、本当に驚いているところであります。政府において、引き続き調査を進めているということでもありますので、どのような経緯で行われたのか、事実関係をしっかりと明らかにしていただくことが重要だというふうに思います。

私としましてはですね、公文書の管理はしっかりとするというのももちろんでありますけれども、情報公開というところをやはり力を入れていかなければならないなという思いを持っております。

県政について県民に説明責任を果たし、県民の県政に対する理解と信頼を深めることが何よりも大切でありますので、昨年の11月から「情報公開・提供の検証、見直し第三者委

員会」、「見える化委員会」と呼んでおりますけれども、それを設置しまして、率先して情報公開・提供の全般について、幅広い観点から検証・検討を行っております。この中で「情報公開」や、「文書の管理」についても検証していただいているところです。今年の秋までに御意見をいただいて、年内には見直しを完了することとしておりまして、しっかりと検証見直しを行っていく所存です。

やはり、できる限り情報は公開すべきだというふうに思いますし、県民の皆さんの信頼ということが何よりも大切だと思っておりますので、今、国会は大揺れでありますけれども、やはり、1つの自治体としてしっかりと文書管理、また、情報公開に力を入れていきたいというふうに思っています。

記者

日頃、公文書に目に触れる機会もある知事というお立場としてですね、今回、財務省の書換えという問題については、率直にどういうふうな受け止められましたか。

知事

そうですね。そんなことがあるのか、という思いですね。はい。ちょっと驚いております。

記者

あまり信じられないというか、感覚としてはどうですか。

知事

そう、本当に、はい。感覚としては、やはり、信じ難いようなことが起きているのだなということでもあります。

書換え、そんなことがなされるものなのですかね、ということでもあります。まず、どうしてそういうふうになったのかとかね、国会の場で明らかになっていくのではないのでしょうかね。国民もやはりそこを期待しているのかなというふうに思っています。